

令和元年度 岡山市歯と口腔の健康づくり推進協議会 議事概要

日時：令和2年3月23日（月）

13:00～14:30

場所：岡山市保健福祉会館9階

1 開 会

あいさつ 保健福祉部 宮地保健政策担当部長

高齢者のフレイル対策として、オーラルフレイルに注目して今後進めていかなければいけないと考えており、今年度、高齢者の歯科口腔機能健診を始めているところ。オーラルフレイル対策を岡山市としてどう進めるか、皆さまのご意見を伺うとともに、高齢者だけでなく小さい頃からの口腔機能の維持・向上を考える一助としていきたいと考えているので、忌憚のないご意見をいただきたい。

2 委員の紹介

令和元年度改選実施

○事務局：委員の任期は令和元年6月13日から令和3年6月12日までの2年間となっている。今年度から新しい任期となっているので、条例の規定により、会長及び副会長を選出していただく必要がある。

○委員：引き続き、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科の森田先生に会長を、岡山市内歯科医師会連合会の壺内先生に副会長をお願いしたいと思うが、いかがか。

（拍手。全会一致で承認。）

○司会：会長には森田委員、副会長には壺内委員が選出されたので、2年間引き続きよろしくをお願いします。

3. 報 告

岡山市の歯科保健の現状（資料1）

○事務局：3歳児の歯科健康診査の結果について。3歳児でむし歯がない子どもの割合の目標値を90%としている。平成30年度、3歳児歯科健診でむし歯のない子どもの割合は

15.9%と徐々に下がっているが、まだ目標値には届いていない状況。

永久歯の一人平均むし歯数の推移について。目標値は12歳児（中学校1年生）の一人平均むし歯本数0.3本としており、平成30年度は0.49本で、まだ目標値には届いていない。小学校6年生から中学校1年生になる1年で0.1～0.2本むし歯が増えている状況。

フッ素洗口を実施する小学校6年生の永久歯の虫歯数の平均値について。フッ素洗口を行う小学校の増加を目標としている。実施校では小学校6年生の平均むし歯数0.17本、実施校以外では0.37本となっている。小学校6年生から中学校1年生の間にむし歯が0.1～0.2本増えることを考えれば、実施校の子どもは12歳児の一人平均むし歯本数が目標値内になるが、未実施校は小学校6年生の時点で目標値0.3本を超えていることになる。フッ素洗口の効果としては、むし歯の抑制率が50%なので、それに相応した数字が出ていると思われる。

中学生における歯肉に炎症所見を有する割合の減少を目標に掲げているが、要指導率と要治療率を足した有所見者率は、平成30年度で23.2%と前年より上がっており、徐々に増加している状況となっている。

妊婦・パートナー歯科健康診査の状況について。これは妊婦・パートナーだけでなく生まれてくる子どもの歯と口の健康を守るために平成27年度後半から開始。妊婦さんの30%、パートナーの13%が受診している状況。

妊婦・パートナー歯科健康診査の受診と子どものフッ素塗布の状況について。子どもの1歳6か月児健診時に、保護者へ妊婦・パートナー歯科健康診査の受診状況と子どものフッ素塗布の状況を調べたところ、妊婦・パートナー歯科健康診査を受けた家庭は、子どもにフッ素塗布を受けさせている傾向にあるということが分かった。

フッ素塗布を受けている幼児の割合について。三歳児健診の時にフッ素塗布を受けている割合を示したもので70%を目標値としている。今まで数パーセントずつ増えていたが、平成29年度から平成30年度は約4%増加した。先ほど示した妊婦・パートナー歯科健康診査の効果もあったのではないかと考えられる。

歯周病検診と高齢者歯科口腔健診の受診者数の推移について。成人期から高齢期を対象に、過去1年間での歯科検診の受診割合を65%とする目標を掲げており、国民健康保険担当課と連携し、検診の無料クーポン券を送っている。また、今年度は高齢者歯科口腔健診も開始している。歯周病健診を受けた人は424人、高齢者歯科口腔健診は76歳限定で、今年度は35人が受診。

○委員：フッ素洗口は、ある程度ターゲットを絞って導入の勧奨をしていくのが効果的では

ないか。未実施の 80 校を詳しく調べ、学童数や地域性等の特徴を見てみると進めやすいのではないか。

○委員：フッ素洗口は如実に実施校と未実施校の差が出ている。フッ素洗口があまり広がらないのは、デメリットがあるからなのか。

○事務局：学校の現場に手間がかかることはデメリットの一つ。

○委員長：教科書的には、数日に一回、数十分の作業が入るということ、もう一つは副作用を危惧する見方があるということ。サイエンティフィックには副作用はないが、洗口液を吐き出せず飲み込むと急性の症状が起こるのではとか、歯の色が変色する等の心配の声はある。実際は何もないが、正確な情報を伝えられていないことの結果として、なかなか広がっていかないのではと思う。

○委員：これだけデータに明らかな差があるのなら、小さい時から口腔機能を考える上でも重要なのでは。

○委員長：全国レベルでは、地域差はあるがフッ素洗口の実施校は増えている。将来のフレイルにも当然つながること、若いうちからやることには価値があると歯科の中では決まったコンセンサスになっている。

○委員：子どもの歯は生え変わるが、むし歯で抜けてしまうのはやはり良くないのか。

○委員長：むし歯で歯が抜けると、普通より早い時期に歯が抜けるので、その後の歯並び等にも影響を及ぼす。

○委員：おやこクラブの集まりでフッ素洗口を知り、店頭で洗口液を探したが見つけれない。

○事務局：発売当初は第 1 類で薬剤師の指導がないと買えなかったが、現在第 3 類医薬品になり、取扱い店は増えている。薬剤師のいる薬局であれば、薬剤師に尋ねていただけるとよい。

○委員：市外からの転入者等、市外にかかりつけ歯科医療機関がある人もいる。妊婦パートナー歯科健診の受診機関についてももう少し柔軟にしていただけるとありがたい。

○事務局：妊婦・パートナー歯科健診は県内でも岡山市のみ実施している事業。近隣市町村から問合せも入っており、今後広がっていく可能性はあるが、岡山市内歯科医師会連合会の協力で実施しているため、市内の歯科医療機関での受診ということになる。

4 議 事

岡山市における高齢者のオーラルフレイル対策について（資料 2）

○事務局：今年度から、高齢者の口腔機能の維持向上対策、オーラルフレイル対策に取り組むということで、76歳を対象に高齢者歯科口腔健診を実施した。35人と受診者数は少なかったが、健診結果は35人中34人が要精密検査となっている。

要精密検査で一番該当が多かったのが、オーラルディアドコキネシス。1秒間に「カ」の音を何回早く言えるか測り、6回未満の人が26名いた。「パ」「タ」についても同様。

岡山市歯科保健基本計画の中間評価より、口腔機能の低下が認められる人の割合として、半年前に比べ固いものが食べにくくなる、お茶や汁物等でむせることがある、口の渇きが気になる、これら3項目のうち1項目以上該当する人が、65～69歳では半数近くに認められている。

東京都の歯科診療所を外来受診する患者189名に口腔機能低下症7つの項目のうち該当する項目がいくつあったかを示したグラフを見ると、20～30代でも30%で該当、80代では100%の人が該当している。3項目以上で口腔機能低下症という診断がつくということから、若い世代でも30%は診断がつく状況。岡山市でもイベントで咀嚼力を調べるガムを使うと、同じように20～30代でも30%程度が色の変化が悪い。口腔機能低下、オーラルフレイルは、若いうちからの対策をしていかなければならないと考える。

口の機能は小さい間に発達、それを維持して、年齢を重ねると衰えていくものだが、そこを衰えすぎないようにフォローしていく必要がある。岡山市歯科保健基本計画の重点項目の一つにも、口腔機能の健全な育成、維持・向上を挙げているが、中間評価では、60歳代における口腔機能の低下の目標項目が悪化しており、高齢者のオーラルフレイル対策を重点的にしていくということで、今年度、高齢者歯科口腔健診を始めたところ。

オーラルフレイルについての市民の認識や理解が不十分で、市民の認識を高めつつ、口腔機能の維持向上の支援策を検討していくという方向のもと、今年度は普及啓発として、岡山市保健所からのお知らせや全戸配布される広報紙にオーラルフレイルのチェックリストを掲載したり、歯周病検診の受診者に対してオーラルフレイルのパンフレットを送付したり、地区組織でオーラルフレイルとその対策について健康教育を実施した。また、76歳を対象に高齢者歯科口腔健診を実施した。

若い年代でも口腔機能の低下が認められることや、60歳代ころから口腔機能の低下が顕著に表れ始め、75歳ではほとんどの人が口腔機能低下症に該当すること、要介護状態で摂食嚥下・咀嚼機能の障害を起こす人もいること等から、今後の対策として、オーラル

フレイルの周知をするのが重要と考え、引き続き様々な機会を通じて周知啓発していきたい。

地域包括ケア推進課が中心となって実施するフレイル健康チェックとの連携で、オーラルフレイルのチェック項目に該当する人が歯科受診に確実につながるよう、歯周病検診や高齢者歯科口腔健診のチラシ、実施する歯科医院一覧を渡している。

若い世代でも口腔機能の低下がみられることや、歯のない人は歯周病検診を受けられないことを考えると、そういった人や高齢者歯科口腔健診の対象ではない人も口腔機能を含めた歯科健診を受けてもらえる形を考えていきたい。

現在、入所施設向けに、口腔ケア等導入支援事業を実施している。施設職員からの口腔ケア研修の要望は多い。通所介護施設の職員等に向けた研修の開催も含め、周知啓発していく。

検診をしただけでは意味はないので、その後確実に指導してもらい、口腔機能の維持・向上がなされるよう歯科衛生士等歯科専門職と連携していきたいと考える。

来年度から後期高齢者健診の問診項目が変わる。口腔に関する項目に該当の人には医療機関から歯科医療機関に紹介していただけるよう医師会にもお願いしているところ。岡山市歯科医師会や県作成のパンフレット、高齢者歯科口腔健診の実施医療機関一覧を配布してもらい、確実に歯科受診につながる流れができたらと思っている。

来年度は高齢者歯科口腔健診の対象年齢を、76歳だけでなく80歳にも拡大。また、周知のため個別通知を実施していく。

- 委員長：オーラルフレイルという言葉の周知はどれくらい進んでいるのか。
- 事務局：聞き慣れない人が多いと思う。地域包括ケア推進課がスポット CM を流す予定で、まずは言葉を知っていただき、むし歯や歯周病だけでなく、口を使うことが大切というのを伝えていきたい。
- 委員：2年前の診療報酬改定で口腔機能低下症という診断がつくようになった。簡易に口腔機能を測れる機器もでき、臨床現場で導入する医師も増えている。歯科医師会会員向けの研修も予定している。パンフレットを配布して患者へのフレイルという言葉の周知を図っていきたい。
- 委員長：病院歯科は口腔機能の検査はしているか。
- 委員：必要な人には検査している。医科、歯科はもちろん、言語聴覚士等とチームを組んで治療をしているところもあると聞く。
- 委員：県からの委託で、歯科衛生士会はヘルシーちゃん体操を作成。介護予防を担う包括

支援センターに配布するとともに、研修会で介護施設職員に普及している。岡山市は別の体操をしているが、歯科衛生士会としても同様のものをしている。

今の子どもたちは元々噛めない、口腔機能が備わっていない子が多い。そういった子どもたちが年を取った時にどうなるのかを危惧しており、その対策を考える必要がある。

○委員：今の子どもたちは全身運動が少なくなっていることも関係しているのでは。蛇口の開閉等で便利になる反面、機能が退化していると感じる。むし歯で歯が全部ない子もいる。

歯科保健の現状報告でフッ素洗口の効果には驚いた。外国では予防歯科が広まっていると聞いたことがある。治療が必要になる前に検診のために歯医者に行くことが当たり前になっている。小さい時に予防歯科という観念が植え付けられるとよい。

○委員：地区のおやこクラブで、歯科衛生士に指導してもらうことがある。また、栄養委員との交流を通じて、正しい食事の仕方や咀嚼、歯磨きの方法等、子どもの口腔機能の大切さをまずは親が知ることができている。

ただ、そういった場に来るのは家庭保育をしている親。仕事をしている親はおやこクラブには来ることができず、そういった人たちにどう伝えるか。子どもに手がかけられない親にも伝わるといいと思う。

○委員：栄養改善協議会では、栄養や口腔機能と合わせ、オーラルフレイル対策の活動もしているが、地域にはまだ浸透しておらず、これから力を入れていかないといけないと感じている。地域への普及を進めていきたい。

○委員長：1年や2年でできることではないので、地域での地道な声掛けをお願いしたい。

○委員：医師会としてフレイルには力を入れている。後期高齢者健診の間診で口腔の項目に該当する人への歯科受診の勧奨をスムーズにできるよう医師会として取り組んでいきたい。

○委員：経営するビルのテナントでは、2階が歯科医院と1階の保育園がコラボして、保育園児の歯科検診やフッ素塗布をしている。

予防歯科は若いうちから始めないと意味がないと思っている。小さい頃から検診を続けるシステムづくりが必要。この協議会から、どういう対策をすればいいか提案していかないといけないと思う。経営者の立場からは、テナントでのコラボを勧めていくことで、信頼のおけるテナントビルとしてやっていけているのかと思う。

○委員長：色々な経営者がいると思うので、広めていっていただけたら。

通所介護は避けて通れないところだが、利用者に対してどのような取組みが考えられるか。

○委員：子どもは学校を通じて色々な仕掛けをすることができるが、これから増えていく 85

歳以上の在宅高齢者にどう仕掛けていくかは問題。この協議会に言語聴覚士に入ってもらい、意見をもらえるといいのでは。企業や地域、施設といった単位で色々な仕掛けがあるが、市内でエリアを広げ、全国的にこういう取組みがいいんだと注目されるものができるとうい。

介護の世界では、外に出られない、家で寝たきりの人は想像以上に増えている。そこに対して国や保険でみてもらえるといいが、実際は難しいのが現状。

○委員：オーラルフレイルの言葉の理解を広めるのがまずは大切。高齢者歯科口腔健診を受けた76歳のほとんどが要精密検査になっている。健診やセルフチェックを受けて終わりではなく、結果を受けて次につながっていくことも大切。その先のところを医療と行政でしっかりしてもらいたい。

障害者団体としては、岡山市歯科保健基本計画の重点的な取組みの一つである障害者等の口腔の健康の保持増進への取組みもしっかりやってもらえればと思う。

○委員：オーラルフレイルのパンフレットを岡山県で作成しているので周知に使ってほしい。乳幼児期や学齢期は法律で健診の義務があるのでデータがあるが、学齢期を離れると客観的なデータを集めることが難しい。岡山市の高齢者歯科口腔健診のデータ等を共有していただければと思う。

○委員長：来年度の協議会で、普及の効果や評価ができたなら。委員からの意見を次年度の歯科保健事業の展開に活かせるか、検討していただきたい。

5 その他

PHO（ポジティブヘルスオカヤマ）の紹介

○事務局：10月のG20保健大臣会合のレガシーとして、37団体で構成した会議で作成したもので、10年後の2030年に目指す岡山の姿をイメージしている。「みんなで目指す」のが肝と考える。新しい健康の概念とサポートできる社会を目指すことが大切で、医療関係者や行政だけでなく、経済団体、教育、マスコミ等社会全体で下支えをしていただきたい。チャレンジII-7には「フレイル対策の推進」とあり、ここにオーラルフレイルの取組みも盛り込んでいる。この理念に沿って、病気や障害の有無にかかわらず、生きがいをもって過ごせる社会の実現のため、各団体でも取組みを進めていただきたいと思います。

6 閉 会

あいさつ 健康づくり課 木尾課長

子どもから高齢者まで、いきいきとその人らしく暮らせるまちを目指す中で、口の健康は重要なことと考えている。様々な立場から意見をいただき、大きなヒントをいただけたので、これから岡山市のサクセスモデルが作れたらと考えている。